

Project	地域協働専攻 地域政策グループ
15	七飯大沼清掃・美化お手伝いプロジェクト2022
メンバー	[学 生] 中村 栞 / 鳥毛 真歩 / 山田 侑芽 / 西山 真央 / 金澤 陸玖 / 太田 陸斗 / 田頭 昂大 / 石田 翔大 / 石川 凧沙 [担当教員] 浅木 洋祐

【背景】

函館市のとなりの七飯町にある大沼国定公園は、道南地域でも有数の魅力あふれる観光地である。しかし、人気がある観光地のため、ポイ捨てゴミなどの問題が存在する。さらに、近年では新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、観光客の減少によって苦しい状況にある。

【目的】

本プロジェクトではポイ捨てゴミの問題などにとりくみ、大沼国定公園の魅力と訪れる観光客の満足度を高めることを目指した。また、活動を通して参加学生が大沼の魅力に触れ、その良さを理解することにも努める。本活動を通して、大沼の活性化を応援することがプロジェクトの最終的な目標である。

【概要】

七飯大沼国際観光コンベンション協会(以下、大沼観光協会)と連携して、大沼での清掃・美化活動を中心に、大沼の活性化のための活動を積極的に推進する。

【プロセスと成果】

前期の4、5月は、学生・教員のミーティングに加えて、大沼観光協会の方にも参加してもらってミーティングを行い、活動内容を検討した。6、7月に①大沼での清掃・美化活動、②大沼の魅力向上のための提言の作成、③大沼湖水祭りのボランティア活動を行った。

- ①大沼での清掃・美化活動では、2班に分かれて大沼の湖畔道路を中心にポイ捨てゴミを回収した。
- ②大沼の魅力向上のための提言の作成では、大沼の魅力を学生が理解するために、実際に大沼を散策して、その魅力を向上するための提言を検討した。
- ③大沼湖水祭りでのボランティアでは、新型コロナウイルス感染症の問題から、3年ぶりの開催となった祭りのボランティアとして学生が参加した。

後期の活動は、④大沼周辺の清掃・美化活動、⑤大沼の魅力向上のための提言の作成の2つを行った。

④大沼周辺の清掃・美化活動では、ゴミが多くて掃除が間に合わないと北海道開発局函館開発建設部から聞いていた大沼近くの駐車場で清掃活動を行った。

⑤大沼の魅力向上のための提言の作成では、前期に引き続き、学生による大沼散策を行った。



【湖水祭りのボランティアをしている様子】

【総括と反省・今後の課題】

初めて実施した地域プロジェクトであり、新型コロナウイルス感染症の影響下で実施したことを考慮すれば、まずまずの活動内容になったと考える。

反省・課題は下記の3点である。

(1) 新型コロナウイルスの感染拡大の影響

感染に配慮した活動となるため、大沼までの移動や、現地での活動に制約が大きかった。感染症の問題がなければ、もっと有効な活動ができたことが悔やまれる。

(2) 学生間のモチベーションの相違

プロジェクト型学習などのグループ活動に発生しがちな問題だが、途中から一部の学生にやる気のなさが顕著になり、協力してプロジェクトを遂行することが難しかった。

(3) 初年度ゆえの経験のなさ

初めてプロジェクトを実施したため、実際の活動内容や活動時間などに戸惑うことが多かった。特に上記(1)の問題もあったため、思ったような活動が十分にできなかったことは残念であった。



【大沼近くの駐車場での清掃・美化活動の様子】

【地域からの評価】

大沼観光協会の方々には活動に協力的であり、Zoomによるミーティングでもさまざまな提案をしてくれ、実際の清掃活動でも一緒に活動するなどしてくれた。

しかしながら、多様な活動提案をしてもらったにも関わらず、新型コロナウイルス感染症の問題などから、十分に本プロジェクトでは取り上げることができなかった。

この点はやむを得なかった事情があるとはいえ、プロジェクトとして残念な点であり、当初想定していたような十分な地域貢献がプロジェクトでは果たせなかったと考えている。



【年間スケジュール】

■前期

- 4、5月 活動計画の策定
- 6、7月 大沼での活動
- 7月 中間発表会

■後期

- 10月 大沼で活動

(※冬季は新型コロナウイルス感染症の問題を考慮して活動は自粛した)

- 1月 成果発表会

